

(電子メール施行)
農技1218号
令和元年8月14日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和元年度病虫害発生予報第4号を發表します。

令和元年度病虫害発生予報 第4号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(穂いもち)	やや少	やや少
	紋枯病	やや多	平年並
	細菌性病害 (もみ枯細菌病・内穎褐変病)	平年並	
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少
	セジロウンカ	平年並	やや少
	トビイロウンカ	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	やや多	平年並
	イネツトムシ	平年並	やや少
	コブノメイガ	平年並	やや少
ダイズ	立枯性病害	平年並	やや少
	べと病	やや少	やや少
	葉焼病	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	平年並	少
	ハダニ類	平年並	やや少
	吸実性カメムシ類	平年並	やや少
ナシ	黒斑病	平年並	平年並
	黒星病	平年並	平年並
野菜共通	ハイマダラノメイガ	やや多	やや多
	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(8月10日から9月9日までの天候見通し)

令和元年8月8日

大阪管区気象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

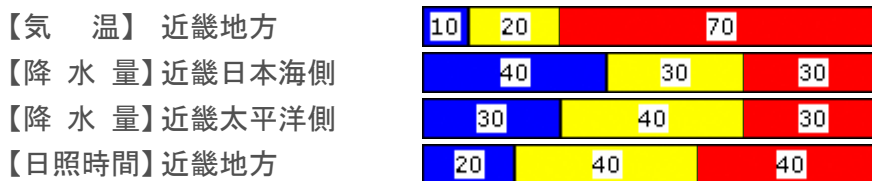
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

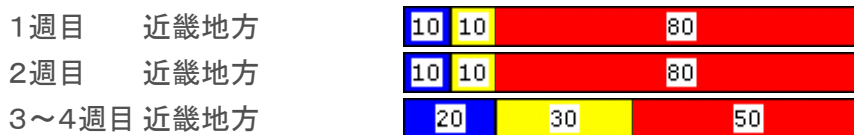
週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 8月10日(土)～ 9月 9日(月)
1週目 : 8月10日(土)～ 8月16日(金)
2週目 : 8月17日(土)～ 8月23日(金)
3～4週目 : 8月24日(土)～ 9月 6日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】（穂いもち）

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 7月下旬の予察ほ場では発病株率2.0%の葉いもちの発病を確認している。現地調査では発病ほ場率9.9%(過去3カ年平均14.1%)とやや少ない発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多いと予想されており、本病の発生を助長する要因は少ない。葉いもちの発生量がやや少ないことから、穂いもちへの移行は少ないと考えられ、今後もやや少ない発生で推移すると予想される。

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場では発病株率2.0%の発病を確認している。現地調査では発病ほ場率5.3%(過去3カ年平均7.2%)と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本病のイネ株内での垂直進展が進み、やや多い発生が予想される。

- (3) 防除上の留意点

ア 農薬散布は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期から出穂期が適期である。散布は患部の葉鞘によく付着するよう下位葉をねらって行うこと。

イ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【細菌性病害】（もみ枯細菌病・内穎褐変病）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 本病の感染時期は主に開花期頃で、この時期に高温(日最高温度30℃以上)で降雨があると発病を助長する。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多いと予想されており、平年並の発生が予想される。

4 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 予察ほ場における7月下旬のすくい取り調査(10回振り)では、加西市で成虫1頭(平年値4.4頭)、幼虫1頭(平年値2.8頭)であり、朝来市で成虫12頭(平年値6.1頭)、幼虫5頭(平年値2.3頭)であった。現地調査でも広い地域で発生が確認されており、

平年並の発生となっている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、増殖に好適な条件となるため、やや多い発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はイネ縞葉枯病を媒介する。イネ縞葉枯病の発病が目立つほ場ではウイルス保毒虫が増加し、翌年の多発につながるおそれがあるので注意する。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

5 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では、7月1カ月間の誘殺数は、加西市5頭（平年値51.0頭）、南あわじ市0頭（同45.0頭）、朝来市17頭（同9頭）であった。7月下旬の予察ほ場では成・幼虫数は6頭/10回振り（平年値25.9頭）及び4頭/10株払い落とし（同8.5頭）とやや少ない発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、増殖に好適な条件となるため、今後は平年並の発生になると予想される。

6 【セジロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では、7月1カ月間の誘殺数は、加西市0頭（平年値4.0頭）、南あわじ市1頭（同27.6頭）、朝来市2頭（同11.6頭）であった。また、7月下旬の予察ほ場では、加西市で成・幼虫数は3頭/10回振り（平年値5.3頭）、朝来市で同じく8頭/10回振り（同10.8頭）の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高いと予想されている。現在、本種の繁殖に好適なイネの生育ステージであり、しばらく増殖が続くと考えられることから、発生は平年並になると予想される。

7 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯への飛来は確認されていないが、現地調査では発生ほ場率3.8%（前年値4.8%）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、発生は平年並になると予想される。本種は夏季に発生が少ない場合であっても秋季に急激に増える場合があり、既に発生が確認されているほ場においては、坪枯れなどの被害につながる可能性が高いので注意する。

8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では6月以降誘殺が続いており、加西市では、7月1カ月間の合計誘殺数は、アカスジカスミカメは589頭(平年値533.7頭)、アカヒゲホソミドリカスミカメは57.3頭(平年値130.4頭)であった。本田では例年よりやや早い時期から発生が確認されており、今後、イネの生育に伴いこれらカメムシ類による加害が懸念される。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、斑点米カメムシ類の活動がさかんになり、発生はやや多い状況で推移すると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 出穂期2週間前までに生息場所であるほ場周辺(畦畔等)の除草を行い生息密度の低下を図ること。出穂直前と出穂後の畦畔除草は水田へのカメムシ類の侵入を助長するので避けること。

イ 農薬散布は出穂期以降に実施すること。散布に当たってはカメムシ類の生息場所全体に届くよう散布すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

9 【イネツトムシ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 7月下旬の予察ほ場において発生は確認されていないが、現地調査では一部の地域で確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、今後は広い地域で発生がみられるようになると予想される。

10 【コブノメイガ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯・フェロモントラップでの誘殺および7月下旬の予察ほ場での発生は確認されていない。現地調査では一部のほ場で発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、今後は広い地域で発生がみられるようになると予想される。

ダイズ

1 【立枯性病害】(茎疫病、黒根腐病)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
ア 7月下旬の予察ほ場では発病は確認されていないが、現地調査では発生ほ場率6.8%(前年値7.5%)とやや少ない発生が確認された。
イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多いと予想されており、本病は平年並に発生すると予想される。
- (3) 防除上の留意点
立枯性病害は排水不良が発病を助長する。畝間灌水を行う場合は、停滞水とならないように排水対策等を実施して、ほ場管理に努める。

2 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
ア 7月下旬の予察ほ場では発病は確認されていないが、現地調査では発生ほ場率9.1%(前年値10.0%)と一部地域で発病が確認された。
イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多いと予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると予想される。

3 【葉焼病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
ア 7月下旬の予察ほ場では発病は確認されていないが、現地調査では発生ほ場率15.9%(前年値0.0%)と一部地域で例年よりやや早く発生が確認された。
イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、日照時間は平年並または多いと予想されており、本病は高温性の病害であるため、今後発病が予想され、平年並に発生すると予想される。

4 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
ア 7月下旬の予察ほ場および現地調査では、幼虫および白変葉の発生は確認されていない。
イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されている。本種の増殖に好適な条件が続くと考えられるほか、今後は密度増加期を迎えることから、幼虫または白変葉の発生が予想される。

5 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
ア 7月下旬の予察ほ場調査では発生は確認されておらず、現地調査では発生ほ

- 場率2.3%(前年値0.0%)と一部地域でごく少ない発生にとどまっている。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くため、発生が助長されると考えられる。

6 【吸実性カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 7月下旬の予察ほ場では発生は確認されていない。現地調査では発生ほ場率が9.1%(前年値5.0%)であり、密度は0.3頭/10株とやや少なかった。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、カメムシ類の活動が活発になり、着莢期以降に発生が増加すると考えられる。

ナシ

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 8月上旬の場内調査及び現地調査では、短果枝の発病葉率6.7%(前年値5.2%)、発生ほ場率100.0%(前年値66.7%)、発育枝の発病葉率1.8%(前年値1.3%)、発生ほ場率66.7%(前年値41.7%)と平年並の発生となっている。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多いと予想されており、本病は平年並の発生で推移すると予想される。

2 【黒星病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 7月下旬の場内調査及び現地調査では、短果枝の発病葉率0.6%(前年値0.0%)、発生ほ場率33.3%(前年値0.0%)、8月上旬の調査では、同じく発病葉率0.6%(前年値0.0%)、発生ほ場率16.7%(前年値0.0%)と平年並の発生で推移している。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多いと予想されており、本病は平年並の発生で推移すると予想される。

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】(アブラナ科野菜)

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 誘致植物のクレオメでの調査では、7月5半旬の寄生シュート(花枝)率が4%であったが、8月1半旬は24%と8月に入ってから増加傾向がみられている。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。今後栽培するアブラナ科野菜類で

は被害に注意する。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。

イ 幼虫が生長点を加害するため被害が大きく、被害を確認してからの防除では手遅れとなる。本種の発生が懸念される場合は、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置されているフェロモントラップでは、例年より早く誘殺数の増加が確認されており、7月1カ月間の合計誘殺数は、加西市で447頭(平年値277頭)であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くため、秋作の野菜類では注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市におけるフェロモントラップでは7月1カ月間の成虫誘殺数は合計90頭(平年値35頭)とやや多い発生で推移している。現地ほ場(南あわじ市)では、ネギで幼虫の発生が確認されており、発生ほ場率は28%、被害株率は3%程度であった。また、カーネーションでも発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。今後、秋野菜の作付にともない、多くの作物において被害が生じると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、生育初期の被害には

特に注意すること。

- ウ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

- (1) 予報の内容

発生量：やや多

- (2) 予報の根拠

ア 果樹を加害するカメムシ類については、本年6月12日付けで病虫害発生予察注意報第1号、同じく7月22日付けで病虫害発生予察防除情報第3号を発表したところである。

加西市のフェロモントラップでは表年（発生の多い年）の平年値より少なく推移するようになっているが、朝来市では7月2半旬に319.1頭、7月5半旬に361.4頭の誘殺があり、依然として平年値を上回る状態が続いている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、カメムシ類の活動が盛んな状況が継続するため、被害の発生が懸念される。予察灯ではチャバネアオカメムシに加え、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺も確認されており、これらカメムシ類による加害も予想される。加害対象の果樹類はナシの他、カキ、ブドウ等があげられる。

- (3) 防除上の留意点

ア 発生状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>